



どうとくだより

富陽小学校

2025. 7. 1



今月のどうとくだよりは、6年生の実践を紹介します。

教材名は、「森川君のうわさ」です。始めに、うわさを信じて友達を傷つけてしまったことはないか、そのときにどんなことを感じたかについて考えを共有しました。考える視点として『公正な態度』とはどういう態度かを見童に投げかけ考えさせました。正義を貫けない弱さが自分達にもあることを感じて、その弱さを何とか克服したい気持ちがあることを引き出しました。「いじめを許さない心とは？」について最後は、自分のクラスや生活などを振り返り、これからどのように行動していきたいか考える授業を行いました。

教材名『森川くんのうわさ』

【あらすじと学習内容】

「ぼく」のクラスの森川君はささいな理由でいじめにあってしまう。仲間外れにする立場の子供は、明確な理由や自覚がないまま振るまい、その他の子供は第三者として、その様子をうかがっています。このお話は第3者の「ぼく」の立場から話が展開されており、子供たちは、「ぼく」の葛藤や心の変化を、自らの体験と関連付けて見つめていくことになります。自分ならどのように考え、対処していこうとすることが大切なのかを考えました。また、関連性のある内容項目として、相手の立場や状況を推し量る大切さから、「親切、思いやり」について考えることもできる教材です。

【授業のねらい】

誰に対しても偏見をもつことなく公正、公平に接し、正義を実現することで、仲間外れのないクラスにしようとするということについて考えること。

📌 学習後の振り返り

今日授業をして、うわさで無口になったりニュースで自殺する人もいるから中学、高校、大学に進んでも、人の迷惑がかからないようにしたいです。

まず、そのうわさを信じなかったり発信を考えたりすることが大切だと分かりました。一度いじめをされるひとの気持ちを考えることが大切だと分かりました。

これからの生活の中で、いじめを見たら止めたり、先生に伝えたり、悪いうわさは否定することが大切だと思いました。

みんなが嫌な思いをしないように、うわさはしないように心がけをして、気持ちよく過ごそうと思いました。

誰が流したうわさか分からないうわさが広がって、そこからいじめになっていったら、事実かも分からないのにいじめられて、かわいそうだと思いました。だから絶対にうわさはしないようにしたいです。

この学習を通して、自分もどんな情報でも信じてしまう癖があるから、まずはそれが本当かどうか、また、その情報が本当だとしても、全員に責められる相手の立場に立って考えることが大切だと思いました。

いじめを許さない心とは、うわさを広めようとしないこと、うわさや話で人を決めつけないこと、しても良いこととダメなことの判断をしっかりとすることだと思いました。

うわさを知っていてもいじめになってしまい、決めつけない心が必要だと思いました。話を通して、自分もいじめをしていないか見直そうと思いました。

いじめのないクラスをつくるために、うわさが広がらないように「それはちがう!」とはっきり伝えたり、先生に言って学級会の議題にして両方の立場に立って考えられるようにすればいいと思います。

うわさはいつでも起こりうることだから、うわさだけで本当かどうか分からないのに、人を判断しない心を大事にします。

今日の学習で一度言ってしまった言葉は取り戻せないと感じました。森川君自身も「ぼくがちゃんと作った!」とみんなに言うことも大切だと思いました。

うわさについて本人に聞いて話してくれたら注意し真実を伝えます。広まったら大人に相談します。うわさを信じず自分で本当かどうか判断する気持ちを持ちたいです。

うわさが本当かどうか「本人に聞いてみたらどう?」と言ったり、うわさを信じず、気にしないで過ごす強い心を持てばいいと思います。



【『森川君のうわさ』の板書】